

窯業

やりたかった夢が
実現しています。



地域や歴史に
関わっている。
地場産業で働ける
ことが嬉しいです。

ふたば せいとうじょ
合資会社双葉製陶所

成形担当

服部 渉太さん
(2015年入社)

仕事内容

型を使った手作業のやきものづくりです。

生産する製品に応じた専用の型を使って、材料を流し込んで固まったら型を外し、成形する仕事です。基本的には手作業で行うものですし、型の新旧や気候によってコツが変わるなど、経験値の求められる点が多々あります。

学校で窯業を専門的に学び、陶芸部にも所属していましたが、個人の陶芸作家として生計を立てていくのは難しいと感じていました。それはいずれの夢として、いまは仕事をしながら、貴重な経験を積ませていただけています。

学校で学んだことが、現在しっかり役立っていると感じます。



● この仕事を目指したきっかけ

瀬戸の窯業高校専攻科を卒業時に、学校の先輩から双葉製陶所を薦められました。

もともと手作業でのやきものづくりに興味があり、また、持病があって機械を使う現場で働くことが難しかったのです。先輩は双葉製陶所の取引先で働いているのですが、ここが手作業仕事で人手が足りていないと、まさに私が探していた、打って付けの会社を紹介してくれました。



● この仕事の面白さ、やりがい

手作業での成形は、手間だからこそやりがいがあります。ときには難しい型があって、どうやったら上手にできるか考えさせられることもあります。社長に相談しながら作業ができています。

中学生の頃からこの道に進みたくて、いま実際にその仕事に就けている。だから毎日の仕事が面白くて、やりがいを感じられています。

また、学校ではろくろを使った陶芸も学んでいたため、社長が「休みの日に使うと良いよ」と、ろくろ設備を入れてくれました。個人的な作品作りができる環境を作ってくれ、とても嬉しく感じています。



[会社紹介]

■ 合資会社双葉製陶所

■ 〒489-0921

愛知県瀬戸市田端町1-115

■ TEL 0561-82-4719

双葉製陶所は瀬戸物を製造する会社です。型を用いた鑄込み成形による生産が中心で、作業は基本的に手作業。複雑なデザインや長尺物など、機械での生産では難しい製品をさまざま製造しています。スタッフの誕生日を全員で祝うなど、経営者夫妻を中心とした少数規模の少人数企業だからこそ、家族的な経営スタイルも特徴です。

手作業の双葉製陶所で
働いているという自負を持ち
確かな技術を身につけてほしい。

代表
山本 修治さん



窯業

経験をもっと重ねて
仕事の幅を広げたい。



いろいろな部署で
仕事ができる新鮮な
気持ちで取り組めて
います。

合資会社 マルワイ矢野製陶所
やの せいとうじょ

セラミックス事業部

佐藤 慧 (けい) さん
(2012年入社)

仕事内容

機械を使ってセラミックス製品を作っています。

会社全体では、原料から成形、焼成、加工、検査を一連の流れで作業しています。私の担当は、成形のなかでもCIP(ラバープレス)成形が中心ですが、成形の種類によって顧客が異なり、その顧客ごとの作業を一貫的に行なっています。また、状況に応じて他の成形を手伝うこともあります。さらに、工場で使用している機械のメンテナンスも行なっています。工程のうち、仕上げなど一部では手作業もありますが、ほとんどは機械を使っの作業です。



この仕事を目指したきっかけ

工業高校の電子工学科で学びましたが、学ぶうちに別の進路が合っているかなと感じていました。そして、就職先を決める際に先生から推薦されたのが、マルワイ矢野製陶所でした。手作業が中心の仕事かと先入観を持っていましたが、入ってみると機械を使う仕事で、最初は意外に感じました。



この仕事の面白さ、やりがい

20代の社員が多くて、みなさん良い人ばかりです。会社は人柄を重視して採用しているそうで、どの部署へ手伝いに行っても、その実感があります。また、いろいろな部署で仕事をする機会が多いため、そのたびに新鮮な気持ちで取り組めることが面白いと感じます。生産しているものは、表立って目立つものではありませんが、どの顧客に届けられるものか分かるようになっていきますので、自分たちの作ったものが、どのように使われるかを想像しながら仕事できて、やりがいになっています。

[会社紹介]

■ 合資会社マルワイ矢野製陶所

■ 〒489-0918

愛知県瀬戸市北脇町216

■ TEL 0561-82-6232

■ <https://www.maruwai.co.jp/>

会社設立は1957年(昭和32年)ですが、創業から130年以上の歴史があるセラミックス製品メーカーです。マグネシア、ジルコニア、アルミナを使用したルツボ、こうばち、サヤなど、少量多品種を製造しており、近年は燃料電池部品や、半導体・電池を生産する際に必要な機材も多く作っています。他社との共同や、自社単独での研究開発にも積極的に取り組んでいます。

佐藤さんは人柄が良いから
どの部署でも歓迎される。
真面目にコツコツ、経験を積んで
くればもっと活躍できる。

代表社員
矢野 仁さん



窯業

一貫生産だから、
モノづくりの実感がある。



同じ作業を続ける
だけじゃない
チャレンジングな作業で、
ステップアップできます。

とうえい
陶榮株式会社
製造グループ成形チーム
サスラー 朗敏(ロビン) さん
(2014年入社)

仕事内容

メインは成形ですが、どの工程もサポートできます。

やきものをつくる工程のうち、主に成形を担当しています。材料を成形機に投入し、形が整えられたものを乾燥する場所へ運びます。これ以降は乾燥して焼成し、焼き上がったものを選別し梱包して出荷という流れを、自社で一貫して行なっています。メインで担当するのは成形ですが、状況に応じて焼成を手伝うことがあるなど、全ての工程を横断して仕事をする事が多々あります。このように、最初から最後まで、どの工程にも関わることができますので、モノを作っている実感があります。



● この仕事を目指したきっかけ

父が陶芸作家をしているため、やきものは身近なものでした。

工業高校の建築科で学び、建築部という部活動では、学校の50周年記念事業で建てた時計塔の、模型を作ったこともあります。モノづくりが昔から好きで、やきものを勉強したいという思いもあり、「先輩も活躍しているよ」と、進路指導の先生から勧められたことがきっかけです。



● この仕事の面白さ、やりがい

一連の流れを仕事で経験していますから、例えば成形の時点で失敗があると、以降の段階でどのように表れてくるかも理解しています。全体の流れを意識して仕事ができます。

また最近では、形状の難しい外装タイルの製造にも携わりました。最初は学びながら作業をしていましたが、想像力を働かせながらやってみると、工場のなかでもかなり上手にできるように上達しました。同じ作業ばかり続けるのではなく、他の工程や、難しい作業にも挑戦できる。多能工化を目指す会社の方針が、面白く、やりがいのある仕事になっていると感じます。

[会社紹介]

■ 陶榮株式会社

■ 〒479-0807

愛知県常滑市小鈴谷字西ノ脇151

■ TEL 0569-37-0800

■ <http://www.i-toei.co.jp>

1886年(明治19年)創業。

陶磁器製品メーカーとして、外装・床タイルや、ルーバー・ブロックなどの建築用製品を中心に、鋳造用の湯道陶管なども生産しています。製品には、複雑な形状のものや長尺品など、さまざまなものがあり、伝統的な製造手法を求められるものもあります。それらに柔軟に対応できる技術力と、挑戦する姿勢が特徴です。

好奇心や興味をもってくれば
工場のどこでも活躍できる。
積極的な人には相応の評価で
応えたい。

代表取締役社長
関 俊治さん



窯業

社員の自主性に任せ、
背中を押してくれる。



作ること、教えることの
両方に興味があったから
この仕事がピッタリでした。

やまげんとうえん
有限会社山源陶苑
TOKONAME STORE 店長
加藤 明夏さん
(2014年入社)

仕事内容

アンテナショップを任されています。

自社ブランド「TOKONAME」のアンテナショップ、「TOKONAME STORE」の立ち上げ時に入社し、オープン当初から店長を任されています。ショップは小売と体験教室の両方でお客様を迎えており、基本的にはひとりで担当していますので、買い物に来たお客様に販売員として接客することもあれば、体験教室で先生をすることもあります。大学で教員免許を取得しており、教える仕事に興味がありましたし、接客のアルバイト経験もありましたので、それらが役立っています。



● この仕事を目指したきっかけ

大学のデザイン科を卒業後、陶芸の世界に魅力を感じたため、常滑の陶芸研究所に入って学びました。そして、その卒業時期に山源陶苑がTOKONAME STOREのオープンを予定し、オープニングスタッフを探していたのです。陶芸研究所に社長が来て、ブランド展開を話してください、面白そうだと感じたことを覚えています。



● この仕事の面白さ、やりがい

やきものは、自然の素材が形になって、普段使えるものになるところが魅力です。山源陶苑は鯉江社長が先頭に立ち、いろいろなことに挑戦していますので、それに携われることが面白いと感じています。今の目標は、陶芸エデュケーター兼作家として独立することです。いろいろなところで勉強して経験を重ねるうちに、自分の力でやってみたいと考えるようになりました。社長に相談したら「やりたいと思ったときが一番いいタイミングだよ」と背中を押してくれました。今後は私なりに、やきものの魅力を伝えていきたいです。

[会社紹介]

- 有限会社山源陶苑
- 〒479-0832
愛知県常滑市原松町3-7
- TEL 0569-35-4657
- <http://tokoname.com/>

1967年(昭和42年)に創業した弊社は、自社ブランド「TOKONAME」を展開し、常滑焼の伝統を更新するチャレンジを行なっています。独自の調合を施した土は、素材の時点で色付けをしてあり、釉薬を用いず焼き締めるため、土肌のやさしい肌触りです。インターネットやSNSを介して、世界からも注目されています。

やきものが好きで熱意もある、
そういう人にとって
良い経験を積める会社で
ありたい。

代表取締役社長
鯉江 優次さん



窯業

勉強しがいのある瓦づくり。

製造部 本社第1工場
柴田 将成さん
(2017年入社)
のし瓦を中心に製造しています。

腕前を求められる
手作り瓦が
面白いです。

えいしろうがわら
栄四郎瓦株式会社

製造部 生産管理係
今吉 銀河さん
(2017年入社)

手作業で特注の瓦を
作っています。

瓦づくりに一貫
して携われます。

仕事内容

柴田

第1工場では、機械を使って瓦を製造しています。材料を機械に投入するところから、乾燥、焼成、品質管理を経て梱包まで、一連の工程を担っています。また、工場が稼働していないときには機械のメンテナンスを行います。瓦づくりは、気候の影響など難しい微調整が必要ですが、憧れの先輩は難なくこなしていました。私も経験と勉強を続けて、そのレベルに近づきたいと思っています。

今吉

文字を彫った瓦、単品オーダーの瓦、連結した瓦など、機械で作ることができない特注品の瓦を手作業で製造しています。入社当初は工場で働いていましたが、3ヶ月ほどの時点で難しい特注品オーダーが入り、手先が器用だと抜擢されて以来、この部門で働いています。いずれは学校で学んできた芸術的な部分を生かして、鬼瓦も作れるようになりたいです。



● この仕事を目指したきっかけ

柴田

大学で建築関係の勉強をして、就職先として建材に注目したときに、愛知県の瓦が全国シェアNo.1だと知りました。そこで、瓦メーカーを探して栄四郎瓦を見学し、雰囲気の良さを感じてここで働こうと決めました。

今吉

大学でデザインを学び、芸術性と実用性を両立できる製造業はないかと探しているうちに、瓦に注目するようになりました。栄四郎瓦は手作りの部門もあると知って、ここで働きたいと感じました。

● この仕事の面白さ、やりがい

柴田

現在の第1工場では、瓦づくりを最初から最後まで一貫して担当する仕組みになっており、どこで失敗すると、どこで何が表れてくるかなど、一貫した瓦づくりを学びやすいように思います。モノづくりをしているという実感が、やりがいつながっています。

今吉

私が担当する瓦にはさまざまなものがあり、ときには技術的に難しいオーダーがあります。それらを工夫して、どうにか完成できたときには大きな達成感があります。腕前を試されるような難しい仕事ほど、大変な反面、面白いです。

[会社紹介]

- 栄四郎瓦株式会社
- 〒447-8512
愛知県碧南市白沢町1-38
- TEL 0566-48-5111
- <http://www.eishiro.co.jp>

栄四郎瓦では、いぶし瓦、平板瓦、カパラスなど、さまざまな瓦を製造販売しています。創業は1801年(享和元年)と極めて古く、地場産業である三州瓦を長年生産。本社工場ははじめ多くの工場施設を有しており、いぶし瓦については全国最大の生産量を誇ります。



瓦づくりは大変なことが多く、
難しい作業もあります。
ひとつずつ覚えて未来を
引っ張ってほしい。

管理部 総務課 主任
小野 達也さん

窯業

アットホームな 雰囲気で行ける 人間関係。

製造部
大屋 琢磨さん
(2008年入社)
機械を使って瓦を
生産しています。

上の人たちが話しやすい
人ばかり。その雰囲気が
浸透して居心地を良く
しています。

さんしゅうのやす
三州野安株式会社

商品管理部
野村 あやのさん
(2017年入社)
事務仕事に
プラスαがあります。

品質保証部
仁木 綾香さん
(2013年入社)
瓦の品質をチェック
する仕事です。

仕事内容

- 大屋** 工場で作っています。現在は新人の育成を任せられることも多いため、作業しながら新人に指示を出すことも仕事の一端です。教えるときは先輩になって、機械操作を教えるだけでなく、手順の意味を理解できるよう心がけています。
- 仁木** 製造部の作った瓦をチェックして、正しい品質を保っているかどうかを確認しています。基本的にはひとりで黙々と検査をして、もし品質の良くない瓦があった場合は、上司に報告する仕事です。
- 野村** 主に事務仕事です。デスクでパソコンに向かって作業を続けるような仕事は苦手だったのですが、ドライバーさんなど誰かと話をしたり、体を動かすこともあって、単調ではない仕事で自分に合っています。



● この仕事を目指したきっかけ

- 大屋** モノづくりに漠然と興味を感じていた就職活動の時期に、漫画の影響で瓦づくりを知りました。瓦メーカーを探して最初に面接を受けた会社がここでした。
- 仁木** 企業説明会で三州野安のことを知りました。最初はモノづくりに瓦にも、あまり関心はなかったのですが、仕事をしているうちに屋根に目が行くようになりました。
- 野村** モノづくりの仕事をしたくて、人間関係を重視して学校の先生に相談したら、三州野安を紹介されました。面接の時点でも良い印象を感じて入社を決めました。

● この仕事の面白さ、やりがい

- 大屋** 瓦を作る工程では確認すべき点が多くあり、大変なこともあります。ときにはトラブルで止まってしまうこともありますが、その原因を自分の力で見つけられて、解決できたときには「仕事が分かった」と嬉しいですね。また、新人を教育する立場ですから、教えている後輩が成長してくれることもやりがいになっています。
- 仁木** 検査の仕事ですから、状態の良くない瓦を見つけて、上司に報告できたときは「ちゃんと見つけられた」と嬉しく感じます。この仕事を始めたころよりは、経験を重ねて目が利くようになったと思います。
- 野村** 最初は品質保証部でしたが、1年ほど前に商品管理部へ異動したため、まだ覚えることばかりです。それでも、忙しい1日を上手にこなせたときはやりがいを感じます。人との接点が多い仕事で、業者さんなどから話しかけていただけることも多々あります。また、分からないことは先輩たちに聞けば、いつでも丁寧に教えてくれます。

[会社紹介]

- 三州野安株式会社
- 〒444-1323
愛知県高浜市田戸町二丁目2-44
- TEL 0566-52-1148
- <http://www.noyasu.com>

大正2年創業で、「日本三大瓦」のひとつに数えられる「三州瓦」をはじめ、陶器製瓦を幅広く製造・販売する老舗瓦メーカーです。愛知県高浜市に本社を構え、半田市、高浜市に生産拠点をもち、さらに東京都、福島県に営業拠点があります。創業以来の伝統的なモノづくりを継承しつつ、徹底的な品質管理を維持しながら、新たな製品開発にも挑戦しています。

製造本部 次長
仲嶺 秀喜さん

彼らには言われたことだけでなく、発想や想像力を生かしたアイデアで、もっと会社を良くして頂こう事を期待しています。

